

# 世界リーディング・ ユニバーシティに向けて



東北大学は、1907年(明治40年)の建学以来、「研究第一」、「門戸開放」、「実学尊重」の理念を掲げ、世界最高水準の研究・教育を創造してきました。本冊子では、本学の様々な取組みの中でも2009年度における特筆すべき取組みを紹介しています。

いま、人類社会は地球規模で克服すべき様々な複雑かつ困難な課題に直面しています。東北大学は100年という歴史の中で継承してきた知の蓄積と、絶えざる研究・教育の創造を通して、前途に横たわる諸課題に堂々と立ち向かう先導力となり、人類社会の発展に貢献する「世界リーディング・ユニバーシティ」になる決意をしています。

そのために、本学では2007年3月に「井上プラン2007」を策定し、教育、研究、社会貢献、キャンパス環境、組織・経営という5つの柱ごとにアクションプランをとりまとめました。

その公表から3年。この間のプランへの取組みにより本学は着実に進化を続けています。一例を挙げると、海外インターンシップ制度の拡充や国際化拠点整備事業(グローバル30)の展開など教養教育の充実と教育の国際化を進めています。また、卓越した知識と創造的総合知を備えた、21世紀の学術をリードする研究者を育成する「国際高等研究教育機構」の創設、世界トップレベル国際研究拠点

形成促進プログラムによる「原子分子材料科学高等研究機構」の発足など異分野融合型の新しい研究体制を構築しています。さらに、APRU、T.I.M.E.、AEARUへの加盟を通じた国際的プレゼンスの向上、国際水準のキャンパスの整備、国際競争力を支える人事システムの構築、東北大学基金の創設、欧州大学協会による外部評価の実施など、オリジナリティに溢れた取組みを進めています。

“2010年”—研究・教育の拠点である大学も、空前のスケールで激変を続ける世界の潮流の中でその存在意義を問われています。東北大学は、これからの進むべき道程を明確にし、できる限り迅速かつ着実に実行に移して、自身の変革を更に加速していかなければなりません。本学が果たすべき使命、行うべき行動を皆様にご理解いただくとともに、多くの方々と共に挑戦していくことにより、社会から信頼、尊敬、そして愛情を受けられる大学として人類社会の発展に貢献して参る所存です。

東北大学総長  
**井上 明久**

## 2009年4月～2010年7月のレポート

### 2009年(平成21年)

4月3日	「井上プラン2007(東北大学アクションプラン2009年度改訂版)」を公表
4月7日	平成21年度東北大学入学式
7月30日、31日	オープンキャンパス
9月25日	東北大学学位記授与式
10月10日、11日	東北大学ホームカミングデー
11月21日～23日	'09東北大学大学祭
12月31日	東北大学ジルベスターコンサート2009-2010

### 2010年(平成22年)

1月6日	川内厚生会館・新食堂披露式
1月15日	生命科学プロジェクト総合研究棟完成記念行事
2月25日、26日	平成22年度東北大学一般選抜入学試験「前期日程試験」
3月12日	平成22年度東北大学一般選抜入学試験「後期日程試験」
3月25日	東北大学学位記授与式
4月1日	キャンパスバスの試行運転
4月2日	「井上プラン2007(東北大学アクションプラン2010年度改訂版)」を公表
4月5日	“BOOOK”(ブーク) オープン
4月6日	平成22年度東北大学入学式
5月13日	未来産業技術共同研究館竣工式
7月27日	エクステンション教育研究棟竣工式
7月28日、29日	オープンキャンパス

### 井上プラン2007(2010年度改訂版)

「世界リーディング・ユニバーシティ」への道程として井上総長の任期中に取り組もうとしている重点的な課題について、教育、研究、社会貢献、キャンパス環境、組織・経営という5つの柱ごとにとりまとめた東北大学アクションプラン。大学を取り巻く環境の変化やプランの着実な進捗を受けて、進むべき道程を最適なものに改訂している。



<http://www.bureau.tohoku.ac.jp/president/open/plan/plan2010.pdf>

1	教育	『知の継承体』として、築き上げてきた知を教授する教育システムの再構築を図り、『知の創造体』を担う高度な教養、専門的な知識及び国際的な視野を備えた指導的人材を育成する。
2	研究	『知の創造体』として、戦略的独創研究と長期的視野に立つ基盤研究推進のために東北大学独自の最先端の研究体制の再構築を図り、世界トップレベルの研究成果を創出する。
3	社会貢献	「世界と地域に開かれた大学」として、東北大学の人的・知的資源を広く社会に還元して、人類社会全体の発展に貢献する。
4	キャンパス環境	『知の創造体』、『知の継承体』として本学が展開する多様な教育研究活動を支える国際水準のキャンパス環境を整備する。
5	組織・経営	『知の経営体』へと変革し、本学を取り巻く環境の変化や時代の要請に対応できる財政基盤をはじめとする経営基盤を確立する。